

創立30周年記念式典を挙行

式 辞

NPO法人一関文化会議所 理事長 内田 正好



式辞を述べる内田理事長

皆様、本日はご多忙中にも拘らずNPO法人一関文化会議所「創立30周年」記念式典及び令和元年度「一関文化賞」の表彰式に、一関市長勝部修様を初めたくさんのご来賓の方々のご臨席を賜わり、誠に有難うございます。令和元年という新元号の記念すべき2019年の今年、幾多の課題を乗り越え、そして何よりも市民の皆様の温かいご理解と

ご支援のお蔭で、無事30周年を迎えることができましたことは、感謝の念に堪えないところでございます。

さて、30周年を迎えた今年度はその記念といたしまして、第29回「一関文化賞」では、地元出身で地域の文化の発展のために大きく貢献されましたお二方と二団体の方々を表彰させて戴きます。

芸術文化部門では大畑孝夫様、生活文化部門では千葉貞子様、ひとづくり部門では中学二年生に新垣勉コンサートを贈る会様、地域文化部門ではホッパの会様、以上の方々です。それぞれの方々のご功績につきましては後程表彰式にて詳しく御紹介申し上げます。

そして、30周年記念誌といたしまして「ふるさと創生三十年史」を発刊致しました。寄稿に際しましては、各関係者の

皆様からご多用中にも拘らず原稿を御執筆戴きましたことに衷心より御礼申し上げる次第でございます。

また、合併して「新一関市」となりましてから13年目を迎える現在、広域となった地元一関市の歴史の概要とその流れを、分かり易く冊子にまとめて、各年代の方々に楽しく読んで戴けるように「誘い 磐井の歴史と文化」も発刊致しております。執筆者の方々、そして貴重な資料や写真を提供して下さいました方々にも心より感謝申し上げます。御協力本当に有難うございました。

一方、4年前に発刊の「一関地方ゆかりの人物事典」を再刊致しました。この事典は発刊以来非常に好評を博しまして、中学生を初め市民の方々にも人気でした。

そこで文化会議所では「創立30周年」記念と致しまして「誘い 磐井の歴史と文化」と「一関地方ゆかりの人物事典」の二冊を、市内各中学校の全生徒の皆さんに寄贈させて戴きます。郷土の歴史や先人の理解に役立ち、今後生きていく上での糧となるようであれば幸いに存じます

いずれ私たちは、先人からの豊かな文化を継承し、新しいものも織り込みながら、さらに潤いのある豊かな生き方に繋がるように心掛けたいものです。文化会議所では、その活動の一端を担うために精進して参る所存ですので、今後も市民の皆様方の尚一層のご支援をお願い申し上げます。

令和元年11月7日（於：ホテルサンルート一関）



祝辞を述べる勝部一関市長



寄贈図書の目録を受ける小菅教育長

令和元年度 第29回一関文化賞

大畑氏、千葉氏、中学2年生に新垣勉コンサートを贈る会、ホッパの会に

奨励委員会委員長 只野弘三

第29回（令和元年度）一関文化賞の表彰式は、11月7日、一関文化会議所創立30周年記念式典に併せ執り行われ、当地域において文化・芸術の振興、人材育成等に貢献された4者を表彰し、その功績を讃えました。

式では、内田理事長から受賞者に表彰状とトロフィーが手渡され、また、受賞者の皆さんからは、感謝と今後の活動の決意の言葉を頂きました。

今年度の受賞者の方々をご紹介します。



左から、大畑孝夫氏、千葉貞子氏、中学2年生に新垣勉コンサートを贈る会 吉田実行委員長、ホッパの会 勝部会長

【受賞者の紹介】

一関文化賞「芸術文化部門」

大畑孝夫氏

大畑孝夫氏は、山形大学教育学部特設音楽科卒業後、県立高等学校で教鞭をとるとともに、全日本合唱連盟東北支部、全国高等学校文化連盟等の事務局長、岩手県合唱連盟理事長を歴任するほか、退職後、全日本合唱連盟理事等を務めました。

県立一関第一高等学校在職時には、その卓越した指導力で同校を一関地方の高校として初めて全日本合唱コンクール全国大会出場に導いています。これが契機となり毎年の様に一関市の中学生・高校生等が全国規模の合唱コンクールで活躍しています。

また、「合唱のまち一関」を標榜するイベントに第九演奏会と東日本合唱祭がありますが、大畑氏はこれらの開催にあたり中心的役割を担ってきています。

第九演奏会は昭和49年11月から3年に1回開催され14回を数えますが、毎回その運営の母体である実行委員会を組織するための代表発起人になるほか、合唱指揮やソリスト、パート指導を担い継続開催に努めています。

平成2年から開催の東日本合唱祭は今年30回の節目となるどころ残念ながら台風19号で中止せざるをえませんでした。平成11年の第10回から合同合唱のパート指導をするとともに、第12回から第14回まで実行委員長、第19回以降は企画検討委員として招聘団体等への出演交渉役を担うなど、演奏会、合唱祭の実技にかかるノウハウから企画、運営まで携わられ演奏会、合唱祭の継続開催と発展、そして「合唱のまち一関」の情報発信に尽力しています。

さらに、平成21年度から平成30年度まで一関文化協会会長、一関市芸術文化協会会長、いわい地方芸術文化団体協議会会長、岩手県芸術文化協会理事等のほか、一関文化センター運営委員会委員長、一関市民憲章推進協議会理事などを歴任、卓越した識見と指導力で地域文化の発展への貢献度は高く、その功績は多大なものがあります。

一関文化賞「生活文化部門」

千葉貞子氏

千葉貞子氏は、昭和15年現一関市磐井町に生まれました。小学3年生（9歳）だった昭和23年9月列島を襲ったアイオン台風で言葉に表せないほどの不安と恐怖を体験。この台風により、一関市街地では濁流が上の橋や磐井橋付近の堤防を破壊し、死者・行方不明者が473名にのぼる未曾有の大災害となり、千葉氏の家族7人も家屋もろとも濁流にのめられました。千葉氏は、翌日38キロ下流の現宮城県登米市中田町で奇跡的に救助されましたが、母親は遺体で発見、次兄と二人の弟は行方が不明のままとなりました。

「災害は忘れたころにやってくる」と言われます。この地域に暮らす次の世代の健やかな日常生活には、災害体験を忘れることのないよう伝えていくことが不可欠です。

千葉氏は、その後列島を頻りに襲う自然災害を耳に目にする度、それまで恐怖のあまり長年口をつぐんでいた自らが体験した濁流の恐怖を伝えていくことの大切さと使命感を感じ、様々な機会において自らの体験を多くの人に伝えています。

昭和38年NHK盛岡主催ラジオ生番組「一番怖かった体験」における発表を皮切りに、昭和55年北上川改修百年誌、毎日・岩手日報・岩手日日新聞等におけるアイオン台風惨禍の体験報告と紹介。平成10年アイオン台風50周年シンポジウムにおける体験発表。平成15年紙芝居「生きる」を上演。また、平成18年から平成19年には、千葉氏の体験をもとにした市民ミュージカル「今伝えよう 一関の年輪」が上演されています。

さらには、命の尊さと共に今後の災害時の教訓となるよう市内小・中学校をはじめ各地域で語り部活動や講演を続けています。

長年にわたるこれらの活動は、児童・生徒に地域の特徴的風土とその特性によりもたらされる災害への意識を涵養することはもとより、世代を超えた多くの市民の防災意識の高揚に貢献しており、その功績は多大なものがあります。

中学2年生に新垣勉コンサートを贈る会

中学2年生に新垣勉コンサートを贈る会は、「希望と勇気と励ましのメッセージ」を送り伝えたいとの願いのもと、平成23年12月、第1回新垣勉おしゃべりコンサートを開催。以来、毎年、市内外の会の趣旨に賛同いただく皆様から寄付金協力をいただき、生後まもなく不慮の事故で失明し、中学校2年生の14歳にして天涯孤独の身となった新垣氏の人となりを紹介すべく、同年齢の市内の全中学校2年生を対象に無料招待し、今年の開催で9回目となります。

新垣氏は沖縄出身のテノール歌手で、幼少時に両親が離婚、祖母のもとで育てられ、14歳の時にその祖母が逝去。辛苦の日々を送る中で、ある牧師との出会いがあり、人生を生き直す勇気と希望を得、34歳で武蔵野音楽大学声楽科に進み、さらに同大学院修士課程を終了。プロの道へと進まれました。現在は逆境を乗り越えて、自分を救った音楽の素晴らしさを伝えながら、未来を担う青少年たちに“オンリーワンの人生を大切に”“あなたは素晴らしい存在”と呼びかけるコンサートを全国に展開しています。

会のメンバーは、中学2年生に新垣勉氏本人と出会わせたい、彼の人生から沢山の大切なことを学んで欲しい、そして素晴らしい本物の歌声を満喫して欲しいとの思いと、他者を思いやる相互支援の幸せな地域社会を創っていききたいとの願いを、市内の賛同者への呼びかけを継続することを通し、歩み続けています。

実際に鑑賞した中学生からは、14才という多感で自分の将来の方向付けが困難な年代に関わらず、自分を再確認しつつ、地に足が着いたと感じる自分の将来についての考え方を力強く述べた感想が沢山寄せられています。

市内の多くの方々から善意と情熱の輪を働きかけその支援と共に展開してきた会のこの活動は、市内中学2年生の背中を力強く押し、彼らの今後の人生に大きな指標を与えており、その功績は極めて大なるものがあります。

ホッパの会

旧大東町立内野小学校において、平成10年度の「ふるさと学習」の一環として実施した「たたら製鉄」についての学習を契機として、地域の方々からの提案もあり、江戸時代等に地域の山砂鉄を原料に盛んに行われた「たたら製鉄」の体験実習を通じ、地域の歴史、文化を学び、郷土愛を育むことを目標とする教育実践（総合的な学習）が掲げられました。

平成11年5月、地域内の有志10名で旧内野小学校の掲げる教育の実践活動を具体に支援する「ホッパの会（江戸時代に砂鉄の採掘跡が残る山をホッパ山と言われたことに因む）」を設立。以後、全国的にも高く評価された旧内野小学校の総合学習において、原料の採集から製鉄まで ① 砂鉄の採集、② 粘土（レンガ用）採集、③ レンガ作り、④ たたら式溶鉱炉づくり、⑤ たたら製鉄（溶鉱炉で薪、炭を燃やし砂鉄から製錬し、溶鉱炉を壊して鉄を取り出す）、⑥ 木炭づくり（材木の運搬、並べ方）の作業工程を毎年継続して一つ一つ児童が体験出来るよう支援するとともに、児童が製錬した生成鉄で小刀作りなどの製品作成の実演をしており、この取り組みは、新生一関市立大原小学校において現在も引き続き実施されています。

ホッパの会の砂鉄に関わる歴史、文化への取り組みは、旧内野小学校地域のみならず大東地域の歴史、文化にも通ずることから、より大きな広がりで見守られ、旧大東町、地元篤志家の寄付労力奉仕により平成16年6月「砂鉄川たたら製鉄学習館」が竣工。

また、ホッパの会も平成17年5月、より広域的エリアから会員の参加があり組織を再編。学習館を拠点として地域の文化、地域づくりの取り組みの情報を全国に発信しています。

これらのホッパの会の活動は、次代を担う子どもたちに広く地域の歴史・文化に触れさせ、郷土愛や、ふるさとに誇りを持つ意識を涵養するとともに、地域文化を広く情報発信しており、その功績は大なるものがあります。

研修・視察事業

みちのくに華開いた安土・桃山文化の探求

総務委員会委員長 安東正利

晴天に恵まれ、6月25日の朝、参加者52人で出発。仙台藩祖伊達政宗の力によって造営された瑞巖寺と大崎八幡宮にて豪壮華麗な安土・桃山建築を堪能し、研修してきました。

瑞巖寺では自らの行く末を、大崎八幡宮では現世のことを、いささか欲張りに祈ってまいりました。



参加の方々



ガイドの説明に理解も深まり

ふるさと学習院に延べ134名が受講

事業委員会副委員長 畠山 篤 雄

本年度のふるさと学習院は、古代から現代まで文明発展の中心的役割を担ってきた「鉄」に視点を向け、宮城県から岩手県にかけての仙台藩における製鉄を取り上げて、一関地方の歴史と文化を見つめました。

初回と2回目は、原料となる砂鉄と木炭に恵まれて発達した製鉄の歴史を学び、現地探訪では鹽竈神社に遺る鑄銭場資料などの見学、4回目は、たたら製鉄を通して郷土の歴史学習を実践している事例を学びました。



現地探訪に参加の方々

ふるさと学習院

回	開催日	内 容	講 師	受講者数
1	6月20日	開講式、講座「北上山地の近世製鉄遺跡」	たたら研究会全国委員 佐々木 清 文 氏	31人
2	7月24日	講座「仙台藩の製鉄 一藩北部地域を中心に」	東北歴史博物館学芸部長 千 葉 正 利 氏	35人
3	9月26日	現地探訪「奥州一之宮鹽竈神社と周縁」を訪ねる	見学地：鹽竈神社博物館・鑄銭釜、 旧ゑびや旅館、東北歴史博物館	40人
4	10月16日	講座「ふるさとの歴史と文化学び」 …小学生の鉄づくり20年…	ホッパの会事務局長 勝 部 欣 一 氏	28人

東大生出前科学授業

子ども委員会委員長 佐藤 健 三

市内中学校生徒を対象として実施し、好評を得ている「東大生出前科学授業」は、東大CASTメンバー8人が、8月29日には厳美中、30日には大原中と興田中を訪れ、建築や電磁気などのテーマで実験を伴った科学授業を行いました。

「とても分かりやすく理解でき、理科や科学に興味を持った」「科学の幅広さを知ることができた」といった感想のほか、「受験勉強のやり方やポイントも聞けて参考になった」という感想もあり、現役の大学生との交流による副次的な効果も感じたところです。



実験を体験する生徒

30周年記念誌を発刊

「誘い 磐井の歴史と文化」A5判212頁



《内容》

- 第1章 いわいのあけぼの
- 第2章 仏教の伝播と伝承の世界
- 第3章 大地にのこる歴史
- 第4章 人・モノ・交流・営みの槌音
- 第5章 後世に影響を与えた学問と思想
- 第6章 新しい時代の息吹

「ふるさと創生三十年史」A4判120頁



《内容》

- ・沿革・事業の概要・この10年間の活動状況
- ・写真・新聞記事・会報
- ・歴代役員名簿
- ・平成30・令和元年度役員一覧
- ・創立30周年記念事業の概要 他



令和元年7月26日、理事の菅原庸夫氏が急逝されました。

事業委員会で30周年記念事業などにご尽力頂きました。ご冥福をお祈りいたします。